

品目	2019年度 (実績)		2020年度 (見込み)				2021年度 (見直し)		コメント			
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)	伸び率%	下半期 (見込み)	伸び率%	10億円	伸び率%	2020年度	2021年度		
総額	77,171	▲6.3%	32,017	▲18.1%	34,076	▲10.5%	66,092	▲14.4%	↑ 70,403	+6.5%	新型コロナウイルス感染症の影響による日本の景気悪化を背景に、多くの品目で輸入減が記録される。輸入総額を大きく押し下げる品目は、鉱物性燃料、輸送用機器、電気機器など。	鉱物性燃料、原料別製品、食料品などが、輸入総額を押し上げる。ただし、鉱物性燃料、食料品の輸入はそれぞれ19年度の水準には回復せず。
IM 01 食料品	7,141	▲1.1%	3,373	▲8.5%	3,274	▲5.2%	6,647	▲6.9%	↑ 6,888	+3.6%	コロナ禍による外食需要の落ち込みで、魚介類・肉類は大きく19年度を下回る。果実・野菜・穀物は比較的堅調だが、おおむね19年度を下回る見直し。小麦は19年度の反動で価格は上昇。	外食需要の持ち直しで魚介類・肉類を中心に20年度を上回る。とうもろこし、小麦は20年度からの相場持ち直しで価格が上昇。
魚介類	1,552	▲7.1%	661	▲17.5%	678	▲9.6%	1,339	▲13.7%	↑ 1,414	+5.6%	コロナ禍で外食向けが落ち込む。さけ・ますは内食向けの伸びによる一定の下支えが働く一方、まぐろ、えびは内食向けの需要が小さく落ち込み幅が相対的に大きい。外食向けの減少で価格も低下。	外食向けの持ち直しで20年度を上回るも、国内消費の減少傾向もあり19年度の水準には届かず。
肉類	1,551	+2.0%	734	▲9.3%	707	▲4.8%	1,441	▲7.2%	↑ 1,538	+6.8%	コロナ禍で外食向けが落ち込む。内食需要の代替が下支えとなるも全体では19年度を下回る。価格は外食向けの減少で低下傾向。牛肉は20年1月の日米貿易合意成立で豪州・カナダ産から米国産への切り替えが進むが、セーフガード上限で年度内に頭打ちする可能性も。	外食向けの持ち直しなどにより数量・価格ともに20年度を上回る見直し。
IM 02 原料品	4,900	+0.3%	2,140	▲13.1%	2,454	+0.7%	4,594	▲6.2%	↑ 4,713	+2.6%	原料品全体の金額は19年度から横ばい。鉄鉱石は、数量が下半期に段階的に回復、それとともに価格も上昇することで金額が増加する一方、非鉄金属は、数量が弱含む銅の影響もあって、輸入額が減少する見直し。	原料品全体の金額は20年度から増加する。鉄鉱石は、需要の弱さから数量はほぼ横ばい、価格は緩やかに低下するため、金額はやや減少する一方、非鉄金属は、数量の増加と価格の緩やかな上昇が想定される銅の影響もあって増加する見直し。
鉄鉱石	1,231	+19.2%	434	▲27.4%	679	+7.4%	1,113	▲9.5%	↓ 1,045	▲6.1%	下半期の数量は自動車向けなど需要が段階的に回復し、足元までの価格の上昇を踏まえると、金額は前年同期を上回る見直し。	自動車向け以外の需要の弱さもあって数量はほぼ横ばいを推移し、価格も20年度から緩やかに低下するため、金額は20年度を下回る見直し。
非鉄金属	1,383	▲6.1%	686	▲1.6%	630	▲8.1%	1,316	▲4.8%	↑ 1,469	+11.6%	銅の数量は国内製錬所の定期修理の影響もあって弱含む、価格は上半期からのほぼ横ばいとなることを踏まえると、非鉄金属の輸入額は19年度を下回る見直し。	銅の数量は定期修理の影響があるものの20年度から増加。価格も緩やかに上昇することを踏まえると、非鉄金属の輸入額は20年度から増加する見直し。
IM 03 鉱物性燃料	16,566	▲13.2%	4,532	▲45.1%	5,286	▲36.4%	9,817	▲40.7%	↑ 11,485	+17.0%	原油価格の下落や新型コロナウイルスの影響による需要低迷により大幅に減少。	原油や石炭の価格上昇を主因におおむね増加に転じる。
原油及び粗油	7,980	▲8.5%	1,669	▲59.0%	2,246	▲42.6%	3,916	▲50.9%	↑ 4,946	+26.3%	新型コロナウイルスの影響で原油価格下落。経済活動の停滞による需要減少により数量も減少。	原油価格上昇を主因に増加。新型コロナウイルスの影響で停滞した経済活動が回復に向かい、数量も増加に転じる見直し。
石油製品	1,571	▲19.4%	493	▲31.9%	689	▲18.7%	1,182	▲24.8%	↑ 1,416	+19.8%	原油価格の下落による価格下落を主因に減少。数量は、国内外の石油製品需要減を受け国内製油所は稼働率を落としており、不足した製品の輸入が増加。	原油価格の上昇に伴い価格が上昇。
LNG	4,096	▲15.8%	1,391	▲28.3%	1,361	▲36.9%	2,752	▲32.8%	↑ 3,000	+9.0%	LNGはデリバリーされる3か月前の原油価格にリンクしていることが多く、原油価格の下落に伴い価格が低下。	原油価格の上昇に伴い価格が上昇。数量については、原子力発電の再稼働状況の不透明性や石炭火力発電への逆風はLNG輸入量の増加要因となり得る一方、拡大速度が不透明ながらも再生エネルギーの普及も想定されるため、19年度と比較しLNG輸入量は大きく変動しないと想定。
LPG	526	▲19.7%	175	▲30.8%	272	▲0.5%	446	▲15.1%	↓ 435	▲2.7%	新型コロナウイルスの影響により需要が低迷し数量減少。原油価格の下落により価格も低下。	景気回復による工業用の需要増や、在宅勤務の浸透などによる家庭用需要の堅調な推移が見込まれるが、外食産業や自動車用需要はコロナ禍以前の状況への回復が見込めず、数量はほぼ横ばい。価格はやや下落する見直し。
石炭	2,363	▲16.8%	796	▲36.6%	707	▲36.3%	1,502	▲36.4%	↑ 1,665	+10.8%	原料炭、一般炭ともに価格・数量の両面で減少幅を大きく広げる。国際市況の悪化に加え、世界的な自動車市場の縮小などに伴う鉄鋼生産の落ち込み、産業用電力需要の減退といった国内事情が下押し。	原料炭、一般炭ともに増加に転じる。価格は、世界需要の持ち直しに伴い緩やかに上昇。数量も、自動車向けを中心とした鉄鋼生産の持ち直し、国内での電力需要の復調を受けて底打ち。
IM 04 化学製品	8,064	▲5.4%	3,938	▲3.4%	3,957	▲0.7%	7,895	▲2.1%	↑ 8,092	+2.5%	石油化学製品：すでに国内需要は回復に転じたが、一部有機化合物の輸入増加の剥落などあり下半期の減少率は上半期とさほど変わらない。医薬品：高齢化に伴う国内需要の伸びに加えて、高い薬効を求める特定の医薬品や医療費抑制を目的とする安価な医薬品に対する嗜好を不織布マスクなど衛生用品を中心に織物系及び繊維製品が急増、非鉄金属も底堅く推移した一方、鉄鋼や非鉄金属製品が大幅減になる。	国内景気の回復に伴い数量を中心に緩やかな増加が続く。
IM 05 原料別製品	6,906	▲7.4%	3,322	▲6.9%	3,469	+3.9%	6,790	▲1.7%	↑ 7,820	+15.2%	下半期の数量は中国からの輸入が微増も全体としては横ばい、価格も需要の弱さを反映してほぼ横ばいで推移するため、輸入額は上半期よりも弱含む見直し。	需要回復に後押しされる非鉄金属や鉄鋼の一方、繊維物系及び繊維製品が落ち着きを見せる。
鉄鋼	893	▲13.4%	338	▲27.9%	309	▲27.3%	647	▲27.6%	↑ 714	+10.4%	アルミニウム：下半期の数量は自動車向けの需要が増加する一方で建材が振るわないため緩やかに持ち直し、価格も緩やかに回復するため、輸入額は19年度下半期をやや下回る見直し。	数量では製造・建設・インフラなどで内需が持ち直す一方で、価格は緩やかな回復にとどまるため、輸入額は20年度から増加するものの、19年度を下回る見直し。
非鉄金属	1,769	▲9.5%	798	▲8.4%	1,000	+11.3%	1,798	+1.6%	↑ 2,534	+41.0%	アルミニウム：下半期の数量は自動車向けの需要が増加する一方で建材が振るわないため緩やかに持ち直し、価格も緩やかに回復するため、輸入額は19年度下半期をやや下回る見直し。白金：数量は宝飾品需要が弱含むなか、自動車向け需要が緩やかに回復、価格は上昇傾向が続くため、下半期の輸入額は19年度下半期を上回る見直し。	アルミニウム：緩やかな景気回復とともに、国内需要や中国向け需要が回復し、価格も上昇傾向を保つため、19年度の輸入額を上回る見直し。白金：数量は自動車向けを中心に19年度をやや上回る水準まで回復、価格も底堅く推移するの、輸入額は増加する見直し。
織物系・繊維製品	926	▲5.2%	762	+59.9%	525	+16.5%	1,286	+38.9%	↓ 946	▲26.5%	不織布マスクの数量急増・価格高騰を主因に大幅増。マスク以外でも、衛生用品向けやテント向けの資材、半導体製造用の研磨材などの輸入が増加。	マスク需給の安定化を主因に減少に転じる。衣料品の在庫調整、電気機器・インテリアなどでの巣ごもり需要の一般も、衣料・住居関連品向け資材のほか、研磨材など産業用途品の輸入を押し下げる。
非金属鉱物製品	666	▲10.0%	277	▲22.3%	304	▲1.8%	581	▲12.8%	↑ 625	+7.6%	ガラス及び同製品：上半期は19年度からほぼ横ばいの動きであり、下半期も19年度並みの水準となる見直し。ダイヤモンド：下半期の数量は上半期から持ち直すものの、景気減速に伴う雇用・所得環境の悪化もあって前年同期の水準を下回り、価格は需要が弱含むこともあってほぼ横ばいの動きになる見直し。	ガラス及び同製品：景気とともに持ち直すものの、19年度水準には回復せず、価格もほぼ横ばいの見直し。ダイヤモンド：数量は20年度からやや持ち直すものの、経済水準と同様に19年度水準を回復せず、価格もほぼ横ばいで推移する見直し。
IM 06 一般機械	7,349	▲7.1%	3,515	▲7.6%	3,443	▲2.9%	6,957	▲5.3%	↓ 6,871	▲1.2%	テレワークの急速な広がりに伴い、電算機類の増勢が強まるほか、半導体製造装置も需要が回復。一方、新型コロナウイルスの影響で設備投資が抑制され、原動機を中心に大幅に減少。	5Gに関連して半導体製造装置の需要が伸びるほか、景気回復に伴い原動機も緩やかに増加するものの、電算機類がモバイルPCを中心に減少に転じるため、全体としては20年度から微減となる見直し。
電算機類(含周辺機器)	2,148	+4.6%	1,253	+17.1%	1,229	+14.0%	2,481	+15.5%	↓ 2,263	▲8.8%	19年度から増勢が強まる。テレワークの急速な広がりに伴い、モバイルPC(ノート、タブレット)が大幅増加。その他、キーボードなどの周辺機器、ゲーム用的高性能PCも好調。	モバイルPCを中心に減少に転じる。巣ごもり生活品目の一つであるゲーム用PCの増勢も一服。ただし、テレワーク導入の動きが中小企業でも拡大することや、「GIGAスクール」実現に向けて学校へのPC供給(主にタブレット)が増加することなどから、急激な落ち込みは回避。
IM 07 電気機器	11,760	▲4.7%	5,278	▲9.2%	5,729	▲3.7%	11,007	▲6.4%	↑ 11,234	+2.1%	新型コロナウイルスに伴うテレワーク増を受け、半導体関連・ネットワーク関連通信機器などが増加したが、上半期の携帯電話の販売不振や低価格スマホやタブレット需要増に伴う半導体の価格下落により、電気機器全体の輸入額は減少となる見直し。	通信機は、新型コロナウイルスの収束に伴う携帯電話販売の回復と5G案件の増加によるネットワーク関連機器の増加により、20年度を上回る見直し。また、半導体関連部品は中小企業の設備投資および家計向け需要による下支えで微増となり、電気機器全体としては微増となる見直し。
半導体等電子部品	2,579	▲7.3%	1,230	▲5.0%	1,253	▲2.4%	2,483	▲3.7%	↑ 2,517	+1.3%	経済の不透明感が重しとなるもコロナ禍を受けたテレワーク増加の押し上げなどにより数量は19年度を上回る。市場全体の供給過剰や低価格のスマホ、タブレット需要の増加で価格は19年度を下回る。	大企業ではコロナ禍による需要急増の反動減が起きるも、中小企業の設備投資や家庭向け需要が下支えし、数量は微増。世界経済の持ち直しに伴い需給バランスは徐々にタイト化するも、低価格のスマホ、タブレット需要は継続し価格は横ばい。
通信機	2,782	▲8.5%	1,199	▲5.4%	1,438	▲5.0%	2,637	▲5.2%	↑ 2,888	+9.5%	通信機の大半を占める携帯電話は、新型コロナウイルスの影響で販売低調かつ新機種に目玉性もないことから、上半期の遅れを取り戻せず、19年度を割る水準にとどまる見直し。一方、テレワークおよび5G敷設に向けた基地局などのネットワーク関連機器は大きく進展し、携帯電話の不振分をある程度はカバーすると予想。	携帯電話は更新需要のみにとどまるものの、新型コロナウイルスの収束に伴い販売が例年並みまで持ち直す見直し。基地局などネットワーク関連機器については、テレワーク需要は落ち着くものの、引き続き5G関連の設備投資が堅調に推移することが予想されるため、通信機器全体では20年度を上回る見直し。
IM 08 輸送用機器	3,485	▲0.7%	1,134	▲37.4%	1,435	▲14.2%	2,569	▲26.3%	↑ 2,769	+7.8%	新型コロナウイルスの影響により、自動車輸入は主要輸入元である欧州での生産が低迷。部分品輸入も米国、アジアを中心に減少し、航空機類は完成品の受け取り延期もあり半減。下半期は回復基調に転じても上半期減分は取り戻せず。	景気の回復を背景に自動車および自動車部分品などがけん引するが、19年度水準には戻らず。
自動車	1,417	+2.2%	505	▲30.9%	645	▲6.0%	1,150	▲18.8%	↑ 1,273	+10.7%	新型コロナウイルス影響により主要輸入元である欧州での生産低迷の影響が大きく20年度上半期は大幅な減速。20年度下半期は回復基調も上半期減分は取り戻せず。	欧州の生産正常化を背景に金額・数量ともに回復を見込む19年度水準には戻らず。
航空機類	858	+5.5%	194	▲56.0%	264	▲36.7%	458	▲46.6%	↑ 562	+22.7%	航空機類は3-5年の受注生産ながら、完成品の受け取り延期により下半期は民間の完成品航空機輸入はほぼなくなる見直し。一方、民間の設備更新に伴う部品調達継続および政府調達の下半期への集中により、下半期の輸入は上半期を上回ると予想。	新型コロナウイルスの収束と航空需要の回復とともに、民間航空会社による航空機の完成品・部品調達が持ち直すも、19年度水準には及ばない見直し。
IM 09 その他	11,001	▲3.4%	4,786	▲14.7%	5,030	▲6.7%	9,816	▲10.8%	↑ 10,531	+7.3%	雑製品除く衣類及び同附属品：コロナ禍による落ち込みは下げ止まったが、家具などの巣ごもり需要の恩恵を受ける品目と、バッグ類などの回復が遅れる恐れがある品目が入り交じる。また、精密機器類では、設備投資の見合わせにより計測機器類の回復が遅れる。特殊取扱品：下半期は上半期の金の輸入急増の影響が剥落する。また、国内景気低迷の影響で再輸入品の輸入は19年度を下回る。	衣料・同附属品は引き続き減少を続けるものの、国内景気の回復に伴い全体としては持ち直し。ただし、その水準は19年度には及ばない見直し。
衣類・同付属品	3,122	▲6.2%	1,319	▲18.4%	1,302	▲13.6%	2,621	▲16.1%	↓ 2,451	▲6.5%	2桁減に落ち込む。4-5月の緊急事態宣言下での店舗の閉鎖・営業短縮のほか、外出機会減少・消費者マインドの冷え込みに伴う需要の減退が、輸入を下押し。	引き続き減少。テレワークなど新たな生活様式の定着が、フォーマルウェアや紳士服などの需要を引き続き抑制。加えて、供給サイドの在庫調整も輸入回復の重しに。
製品輸入	48,565	▲5.0%	21,972	▲11.0%	23,062	▲3.4%	45,035	▲7.3%	↑ 47,317	+5.1%	製品輸入比率68.1%(19年度比+5.2ポイント)	製品輸入比率67.2%(20年度比▲0.9ポイント)

*2020年度上半期の実績は9桁速報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。
*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「↑」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。